

## 令和4年第16回建設トップランナーフォーラム 地域建設業のグリーン戦略

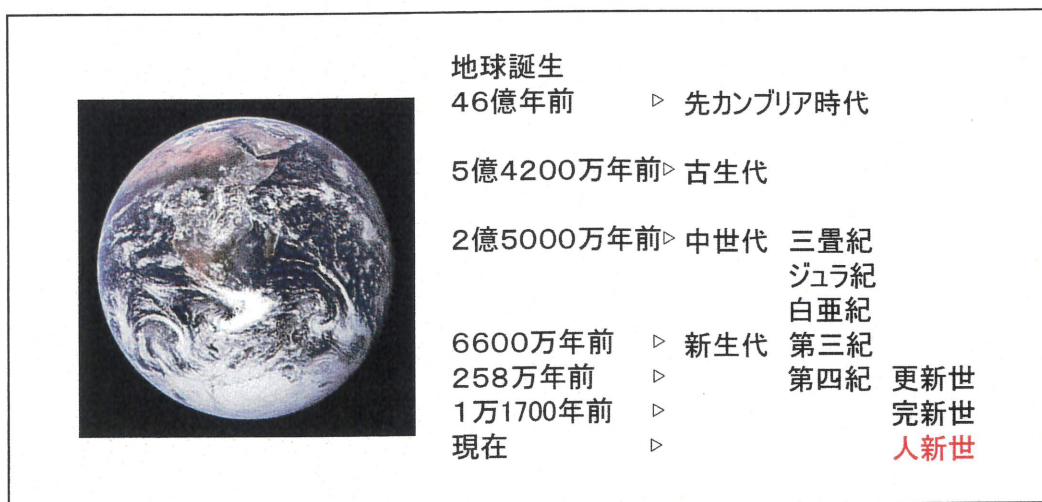
### 開催趣旨

建設トップランナー倶楽部代表幹事 米田雅子



地球は1950年以降、「人新世」に入ったという説が地質学会等から提唱されています。人類は豊かな生活を実現してきました。人類の活動は飛躍的に拡大し、一人当たりの環境負荷は増大し、爆発的に増加した人口との相乗効果により地球の環境は改変されています。人類は地球に負の影響を与え、自ら、この変化に翻弄されています。

国土交通省のグリーンチャレンジでは「脱炭素社会、気候変動適応社会、自然共生社会、循環型社会を広く包含するグリーン社会の実現」を目指しています。



地球温暖化に伴う気象災害の激化や地形の改変等は明らかであり、温暖化対策はまったなしです。2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、地域建設業のグリーン戦略への取組みも加速しています。本フォーラムでは、グリーンインフラを活用した自然共生地域づくりや、循環型社会をめざす環境ビジネスの参入、省エネ・再生可能エネルギーの活用による地方創生などの先進事例を発表します。パネルディスカッションは「地域建設業のグリーン戦略をどう進めるか」と題して、グリーン社会をめざす上で、地域建設業が果たすべき役割や方向性を議論します。

地域建設業の特徴は、現場を持ち、自分達の創意工夫で実践的に取り組むことができることです。そして、建設業が貢献できる分野は広がっています。建設トップランナー倶楽部は、インフラの町医者を目指して、地域防災の担い手、社会インフラの守り手、複業による雇用の支え手として活動しています。これらの活動の中で、グリーン社会を目指す方向は、いつも念頭に置くべき共通の目標と考えます。

今回は、地球規模の時代認識を踏まえて、我々が実践すべき方向を議論していきたいと思えます。